

暑熱後の乳牛飼養管理・秋の草地管理について

■暑熱を受けた乳牛の飼養管理

暑熱ストレスの影響が始める季節になってきます。良好な飼養環境を保つとともに、乳牛を十分観察しましょう。

○繁殖管理

暑熱時に授精できなかった牛が発情兆候を見せたり、夏に授精した牛の再発といったことが想定されます。また、暑熱の影響を受けた牛は、発情兆候が微弱になりやすくなります。発情を見逃さないために、対策を徹底しましょう。

- 発情予定牛をリストアップし、繁殖情報を作業員全員で共有する。
- 発情発見率向上のため、観察時間と回数を増やす。
- 授精後は、早期妊娠鑑定による不受胎牛への対処を前倒し、早期受胎につなげる。

○肢蹄管理

暑熱により、免疫力低下やムラ食い、起立時間の延長を招き、蹄病の原因となります。肢蹄の状態や起立姿勢、歩き方などをモニタリングし、異常牛の早期発見に努めましょう。

※普及センターHP「猛暑を乗り切った「肢蹄の観察」は非常に大切！」をご参照下さい。

■秋の草地管理について

家畜糞尿の秋散布は、牧草の有効茎数を増やす効果が期待できます。より健全な草地維持のために石灰の施用を実施しましょう。

○家畜糞尿の施用

- 維持草地における施用量の目安は、堆肥は3t/10a、スラリー3～4t/10a。
- 「薄く広く」散布するよう心がけ、撒き過ぎには注意する。

○石灰資材の施用（pH6.0以上を保つために）

- 散布量の目安は、タンカル換算で毎年30～50kg/10a
- 最終番草刈取後に散布する。

■お問い合わせ

宗谷農業改良普及センター宗谷北部支所 TEL0162-82-2119

普及センターHP
QRコード



HPも御覧ください